

国際交流事後活動ニュース

MACRO COSM

◎特集 総務庁青年国際交流事業40周年
国際青年交流会議

マクロコズム '99.9



vol. 30

(財)青少年国際交流推進センター

天皇陛下御在位10年記念
総務庁青年国際交流事業40周年

国際青年交流会議



1999年7月16日
東京全日空ホテル

◀ レセプションにおいて
挨拶をする太田総務庁
長官



▼ 参加青年と親しく懇談される皇太子同妃両殿下



「国際青年交流会議」は、皇太子同妃両殿下の御成婚を記念して、平成6年度より始められた「国際青年育成交流」事業の外国青年招へいプログラムの一環として開催されるもので、同事業に参加する日本派遣青年と外国招へい青年及び既参加青年を含めた約400人が一堂に会しました。今年も、天皇陛下の御在位10年と総務庁青少年対策本部による青年国際交流事業の40周年を記念し、海外からの既参加青年を招いての国際交流会議となりました。開会式の後、日本の皇室と青年国際交流事業の40年の歴史がスライドとコンピュータ画面によるビジュアル・プレゼンテーションで紹介されました。第2部では、総務庁青年国際交流事業既参加青年と本年度の国際青年育成交流事業参加青年の代表者による活動報告や事業参加にあたっての抱負が語られました。第3部では、「青年国際交流とボランティア活動」をテーマにグループ討論が行われました。夜には、皇太子同妃両殿下の御臨席の下に歓迎レセプションが催され、



◀ 開会式にて挨拶をする阿部総務庁政務次官

▼ ビジュアル・プレゼンテーションでの
総務庁青年国際交流事業の歴史紹介



▼ グループ・ディスカッション
(フィンランド招へい青年と日本派遣団)



和やかな懇談の席が持たれました。

外国招へい青年は、「国際青年交流会議」を皮切りに、太田総務庁長官への表敬訪問、都内での課題別視察、5府県（岩手県、栃木県、滋賀県、京都府、島根県）に分かれてのホームステイを含めた地方プログラム、そして三重県で開催された「国際青年の村」を体験し、7月12日の到着から25日間にわたるプログラムを終了して8月5日に帰国しました。

〔「国際青年育成交流」事業平成11年度対象国〕

- 日本青年派遣国：ブラジル、チリ、デンマーク、エクアドル、フィンランド、タイ、ジンバブエ
 外国青年招へい国：ブラジル、チリ、デンマーク、エクアドル、フィンランド、タイ、ジンバブエ
 ブルガリア、フランス、ギリシャ、ジョルダン、ロシア、トンガ

40周年記念既参加外国青年招へい



◀ 壇上で紹介される
既参加外国青年

「東南アジア青年の船」「世界青年の船」「日中青年親善交流」「日韓青年親善交流」の各事業から外国既参加青年代表者15か国17名が招へいされ、今までの事後活動の事例やネットワークについての発表が行われました。



▲ 日本既参加青年代表スピーチは、昭和39年に「日本青年海外派遣事業」で東南アジア班に参加した関口氏



▲ 「世界青年の船」からは、イギリスとヴェネズエラの代表が発表者に



▲ 「東南アジア青年の船」からは、シンガポールとタイの代表が発表者に



◀ 今年度の「国際青年育成交流」事業参加者を代表して、外国招へい青年からジンバブエナショナル・リーダーであるウィリアム・ニンデ氏、日本派遣青年からはデンマーク団の友末優子さんが発表



三年振りのカンボディア

群馬青友会 武藤千代子

(平成4年度「青年海外派遣」団員)
中近東班

一年余りの看護婦としてのボランティア生活を終了し、放心状態でプノンペンを後にしてから3年。初めて空の上からプノンペンの夜景を見た。文字通り、一握り程の吹けば消えてしまうかのような夜景であった。一つ、一つ、一生懸命輝いている灯りがたまらなくいとおしかった。

今回プノンペンを訪れた目的は二つ。もう一度プノンペンを肌で感じる事。そして群馬青友会が協力している援助活動の現場を自分の目で確かめることであった。群馬青友会では、日本カンボディア交流協会(JCIA)の活動に協力し、バザーの売り上げ金で現地での障害者職業訓練センター設立、運営に役立ててもらっている。現在ではバイク修理と縫製訓練に29名。そして16名の孤児がセンター内で生活、訓練をしている。地雷被害による肢体欠損、あるいはポリオによる肢体麻痺がその主な障害の内容である。孤児達は、家族が無

いか、あっても貧困で養育できない為、センターで生活している。訓練生達は、この夏頃、一年間の訓練期間が終了し、第1回の卒業生が出るということである。しかし、その就職先も自立支援への保証も100%完全ではない様子である。

センター全体を考えても、いつまでも支援に頼らず、自立運営を検討しなくてはならない。今後は、製法その他で販路を見いだしていく必要があるのではないかと思った。しかし、現時点では、センター運営はおおむね良好。群馬青友会の活動も実を結びつつあるのではないかと思った。群馬青友会の活動は大きなものではないけれど、決して無駄にはなっていないかった。

もう一つの目的。肌で感じるプノンペン。三年振りのプノンペンは、メイン道路に信号が点灯し(守らない人が多い)、路線バスが運行する街になっていた。しかし、夜には遊園地が遅くまで営業す

主な内容

三年振りのカンボディア……………5	ホームステイを引き受けて……………11~12
コソボ難民の緊急支援活動に参加して…7~9	第1回「青年の船」を振り返る……………13~14
最近の日本の若者は…	第11回「世界青年の船」帰国報告会…14~15
すてたもんじゃない!!……………10~11	岐阜全国大会のご案内……………16
	お知らせページ(見てネ!)……………18~20

〈表紙の説明〉

第11回「世界青年の船」
栗田耕一 団員の作品より

「ソロモンの踊り」
(寄港地活動の歓迎式にて)

世界で活躍するIYEO会員



◀ センターの子ども達と（前例右が筆者）

る一方、多くのストリートチルドレンがゴミの山で、1kgたったの6円のビニールを集めるという構図は変わっていなかった。そして熱い太陽とほこりぼっさも。

こんな街ではあるが、愛してやまない街なのである。

現在 JCIA では、展示用の児童画の貸し出し（カンボディアの子供の絵）や、現地での自主生産、販売の為の協力者募集を行っている。

少しでも興味のある方は、以下の所へ連絡を頂ければ幸いである。

〒377-8567
群馬県渋川市明保野
めぐみの園内
日本カンボディア交流協会
担当 財津 進介
☎0279-22-1730

バイク修理の訓練 ▼



コソボ難民の緊急支援活動に参加して

伊東えりか

(平成10年度「国際青年育成交流」事業団員)
ジョルダン班

「すごいところに来てしまったなぁ。」日本から2日半かけてアルバニアという国に辿り着いた。道路はガタガタ、両脇に広がる草原に点在するトーチカ、すれ違うのは銃を背負ったNATO軍が乗る戦車、空気は砂埃で黄色かった。

5月の中旬から下旬にかけて日本緊急援助隊というNGOのボランティアで緊急援助物資を日本からコソボ難民キャンプへ持っていった。キャンプでは、世界中から集まる援助物資の運搬や倉庫の整理、配布、健康チェックなどを主に行った。

エルバサンはアルバニアの首都・ティラナから南東約50キロ。人口は約8万3千人でアルバニア第三の都市である。エルバサンには100~5,000

人収容できるキャンプが数か所あるほか、個人がホームステイという形でコソボ難民を自宅に受け入れているケースも少なくない。あるキリスト教徒のアルバニア人がイスラム教のコソボ難民一家をホームステイさせていた。コソボ難民と同じ人種¹のアルバニア人が人口の約98%を占める同国では、同じ民族を助け合うという考えとともに、宗教的に困っている人を助けるということが強い²ためだという。

誰にも奪えないもの

父親を目の前で殺された17歳の少年は、幼い妹と弟を抱きかかえ母親とアルバニアまで5日間





歩いて逃げてきた。コソボからアルバニアまで168kmの道のりには80kmにもおよぶ人の列ができたという。過酷な体験をしてきたにもかかわらず、キャンプで生活する難民には明るく前向きな姿があった。家、職、家族、財産…すべてを取られても、彼らは誰にも奪えないものをもっていた。それは家族や友人への愛、心の中の故郷、思い出、ユーモア、優しさ、そして夢。人はこんなにも心に宝を持つことができたのか。難民に多くのことを教えられた。

国を意識させられた貴重な経験

ある難民キャンプでは「中国からきたのなら出ていってくれ」と言われた。NATOの空爆に反対している国だからだという。日本人であるということをこれほど意識させられたことはなかった。

海外で援助に関わっていく場合、国というものを背負っているということを痛感した。コソボの人々は日本のことを詳しく知っていて「日本が広島、長崎の原爆体験から立ち直って戦後経済大国になったように、コソボもこの空爆から立ち直りゼロからやり直して日本のように平和な国になりたい」という。平和憲法を持つ日本だからこそできる国際協力が多く存在するのではないか。

「政府の揉め事に何も罪のない人々を巻き込まないでほしい」そう言った高校生がいた。何もしていないのに、ただその民族だということだけで国を追われる人々。皆口々に「国に帰りたい」と言う。弱い立場に立たざるをえない人が多く存在することを知った。それでも彼らは強く生きている。

子どもたちの未来へ

遠い国の出来事だったコソボ紛争が今では近く思える。目を閉じれば、キャンプで出会った一人一人の顔が浮かんでくる。出会った人々も難民キャンプに訪ねてきた変な東洋人を時々思い出しているかもしれない。交流の先に協力がある。心と心の交流なしでは、協力は片手落ちになるのではないだろうか。IYEOでの活動は、平和な国日本の世界における役割を果たす上でこれからますます重要になっていくと確信している。

コソボの難民問題は、空爆が停止したからといって終わりではない。むしろ始まったばかりだ。今度はセルビア側の難民が増えているという。できればユーゴスラビアとアルバニアの両方に援助に行きたい。キャンプには多くの子どもがいる。幼いときに戦争を体験してしまった心の闇は深い。

それでも好奇心旺盛で、天使のような笑顔も見せる。難民がいつも難民でいる必要はない。子どもたちに教育活動を通じて心から解放されるときをつくりたい。子どもたちは「未来」そのものであるから。

同隊では、スタッフや物資の援助、寄付を呼びかけています。

〔問い合わせ先〕

日本緊急援助隊 TEL : 03-5780-1111

e-mail: kosovo@jhelp.com

〔物資送付先〕

〒106-8691 港区麻布郵便局私書箱 65

〔寄付金振込先〕

郵便振替口座 : 00160-7-162438



筆者後列左 ▶

最近の日本の若者は…すてたもんじゃない!!

兵庫県青年国際交流機構

河合真理枝

(第10回「世界青年の船」参加青年)



第10回「世界青年の船」下船後、カナダに住みはじめて約1年が経った。現在学校に通いながら、10年間貸家としていたバンクーバーの我が家を改装し、日本から来る友人知人を接待している。

我が家を拠点して、一人でカナディアンロッキーを旅した女の子。毎日スキー場に通っていた子。引っ越しの予定が変更になり、宿無しになって我が家に急に一か月滞在することになった子。カナダ人家庭にホームステイをし、日本食が恋しくなると週末集まってくる子達。友人の結婚式参加のために親子でカナダに旅行に来た人。一週間の観光旅行に来たカップル。全く英語が出来ないにもかかわらず、海外生活にあこがれ、友人と共に長期滞在をした子たち。初めての海外生活をこれから迎える人達。様々な人々を受け入れるたびに、毎回感じることもある。「最近の日本の若者は、すてたもんじゃない」。

「最近の若者は気配りがない。」「お世話になったらなりっぱなしだ。」「きちんとお礼が言えない。」などの批判を良く耳にするが、私はそうは思わない。私の家に来る人達は、広告を出したり、ホームページを創るようなことをして宣伝しているのではなく、口コミだけで行っているため、家に来るお客さんは、知人やまたその友達ということになる。そのせいもあってか、今のところいい人達ばかりである。勝手なことをし、家を荒らされることも、ものを盗まれることもない。みんな家をととてもきれいに使ってくれる。日本と比べると、広く使いやすいキッチンを皆喜んでくれ、料理や片付けを手伝ってくれたり、食事やお菓子を作ってくれる人もいる。我が家に来て初めて料理をした子も何人かいた。皆使ったものは、きちんと片付け、使い切ったものは買い足す。私が車を出せば、ガソリン代や駐車料を払う気配りもある。帰国後きちんと写真を同封し、お礼の手紙を送ってきてくれる人もいる。

この様なことは、「お世話になったのだから」と、日本では常識と思うかもしれない。しかし、様々な民族が集まるこの国には、出来るだけ支払いを逃れようとする人も多く、そのような人達とのトラブルが絶えない。ルームメイトに日本人を望むカナダ人が多いのも事実である。時代が変わったとはいえ、日本人の「和」の精神が受け継がれ、

それが評価されているのではないだろうか。

これからも、どのようなお客さんが来るかを楽しみに、カナダでの生活を続けたいと思う。

みなさんのお越しを心よりお待ち申し上げます。

mariekawai@aol.com

第25回「東南アジア青年の船」の日本国内プログラムにおけるホームステイ受入をされた佐賀県の方から、感想文をお寄せいただきました。以下の文は、前間家のお祖父様が書いて下さった原稿から抜粋させていただいたものです。

ホームステイを引き受けて

佐賀県 前間 金次

平成10年度、日本政府主催の第25回「東南アジア青年の船」事業の日本国内プログラム中、参加青年が佐賀県を訪れたとき、11月20日から22日までの2泊3日の民泊を引受ました。フィリピン人のマドンナ、ベトナム人のフォン、日本人の陽子さんを迎えることになりました。

私の家庭では、日本を学びに来られた人にどのように接し、感じてもらうかが大きなポイントでした。まず、「家族全員で心のもてなしをしよう」そして、「長旅の疲れが取れるような暖かな雰囲気を作りたい」と思い、食事の献立や見学するところなどを事前に話し合っていました。後は、宿泊者に希望を聞いてから予定を決めることにしました。

20日の18時に佐賀の「はがくれ荘」に集合。立食パーティの後、ホストファミリーとの体面式があり、20時閉会。21時ごろ我が家に着かれたそうですが、残念ながら私は寝ていました。

朝7時半頃起きて台所へ行ってみると、エプロンを掛けた若い人が、朝食の準備を手伝っていました。野菜や豆腐の切り方等を習い、味噌汁を作っているところでした。皆で朝食を取りましたが、マドンナさんの作った味噌汁はなかなかおいしかった。「私は料理が好きだから、日本の食生活を学ぶため、早く起きて手伝いをしました。」と話されました。先ず作った本人が「おいしい、おいしい」の連発し、他の皆もおいしいと言って楽しい朝食となりました。この時、先日作っておいた芋まんじゅうを焼いて出したところ、大好評で、是非教えて欲しいということになり、栗おこわと芋まんじゅうを作ることにした。土の着いた芋を洗うことから始まり、メリケン粉を触らせ、あんと皮にわけて、こね、出来上がりまでを皆と一緒に楽しそうに作りました。お国柄でしょうか、マドンナさんは平らに作り、フォンさんは日本のまんじゅうと同じ形を丁寧に作られた。蒸し器に入れ

ホームステイの感想

て出来上がり。先ず仏壇に備えて、皆で食べ始めました。マドンナさんが「誰に習ったのですか。」と娘に尋ねられたので、娘が「母から。」と答えると「この家庭は、伝統や文化を大切にしているのですね」と言われた。「なにげなくしていることでも伝統や文化になるのだなぁ」と改めて気がつきました。まんじゅうを仏壇に供えたことについては、フォンさんが非常に好感をもたれ、「私の国でもそうします。」と、言われた。そして二人とも「国へ帰ったら芋まんじゅうをごちそうして、作り方を皆に教えます。」と大変喜ばれた。

次は、「生け花と着物を着たい」と言われたので、自転車に乗り、花材を集めに花畑や近くの道端を見て回った後、生け始めました。

生け花の表現を各自説明してくれました。フォ

ンさんは、「前間家のイメージを表現しました。」と、それぞれの花に込めた意味を説明してくれました。中心に生けられたあじさいの木が私と妻だそうです。そして、回りの花が家族、それに陽子さん、マドンナさん、フォンさんの花も咲いていました。下に生けた薔薇がさが、太陽だそうです。太陽の所から斜めに延びている三本の線は、日本、フィリピン、ヴィエトナム。家に陽があたり家族仲良く、また三つの国が伸びゆく姿と、説明がありました。

マドンナさんは、「花器をにっぽん丸にたとえ、世界中の皆が仲良く航海しているところ。」と説明されました。家族や仲間を大切にする心に感心しました。



庭先にて（筆者右側）

第1回「青年の船」を振り返る

～東京ワンナイトクルーズに参加して～

第1回「青年の船」教官

新野 亨

『ひとしきり船内に響くドラの音。やがて「蛍の光」の演奏に送られ「青年の船」のさくら丸（12,600トン）は、「女性を参加させるか否か」で論議になった話題を残しながら静かに晴海埠頭を離れていく。』

明治百年記念事業の一つとして、政府が企画したこの「青年の船」は、全国から選ばれた300人の青年達に規律ある団体生活と、船内における各種研修によって心身を鍛えながら、東南アジア7

か国を訪問して、国際的視野を広め、かつ東南アジア諸国の青年との親睦を図ることを目的としたものである。幸いにして、わたしはこの船の教官団の一人として乗船する機会を与えられたもので、そのあらましを述べることにする。

この船の活動は、「船内活動」と「寄港地活動」とがあり、船内では午前6時30分の起床に始まり、9時から午後4時まで各種の授業が行われ、

▼ 第1回「青年の船」出航式



自由時間は就寝前2時間という厳しい生活であった。寄港地は、台湾、タイ、シンガポール、セイロン、インド、マレーシア、フィリピン及び当時のアメリカの占領下にあった沖縄であった。

低開発国のこれらの国々では、豪華船で訪れた私達に羨望と好奇心の目が向けられ、反日感情が残る一部の国では戦跡巡りのコースも組み込まれており、教官など年配の者には心が痛む思いがしたが、戦争を知らない青年達は、全く意に介せず現地の人との交流に努めていた。

このようにして、船の活動を終えて神戸に帰着した青年達は自信に満ちた顔立ちになり、その後便りを交換する度に成長を楽しみにしていた。

この度、はからずとも日本青年国際交流機構からご案内をいただき、30年ぶりの船旅と当時の青年たちと会えることを願って「東京ワンナイトクルーズ」に参加を申し込んだ。

乗船を前に当時の参加者名簿と写真を探し出し、

しばし感慨に耽った。団長、副団長それに教官3名が鬼籍に入っており、時の流れを感じ今回の船旅は終生の思い出となるであろうとすこしセンチになった。

船中では、団員の中村、奥野の両君と再会し、短い時間であったが、懐旧談に時を忘れ語り合うことができた。

今回乗船した「にっぽん丸」は22,000トンの豪華客船であり、昔の船のイメージでは想像も出来ないすばらしい船であった。食事は美味しく乗組員の対応も丁寧で旅慣れない者に安心感を与え、安心して楽しい時を過ごすことができた。

飛行機や列車と違い、船内を自由に行動できる船旅の贅沢さを存分に味わい、暇と金があったら世界一周でもしてみたいものと、同行者と夢物語をしながら楽しませて頂いた。

今回、旧い者までに気にかけてご案内を頂いた関係者の方に厚く御礼を申し上げる。

第11回「世界青年の船」 帰国報告会を終えて

田中佐代子

(第11回「世界青年の船」参加青年)

第11回「世界青年の船」のテーマ“Celebrating Diversity: Spirit of Tomorrow (違いを喜び合おう)”。プログラム期間中、我々参加青年は、13か国約300人の背景にある、人種や宗教、様々な生活様式の違いを理解し、互いを認識し合うために、

この言葉を何度も耳にし、言葉にし、実践した。そして3月には、このテーマの重みを支える、確かな経験と確信を持って帰国した。

5月に報告会実行委員会が、東京近郊に住むメンバー中心に発足した。我々が経験した“Celebrating Diversity”を再現すると同時に、一般の来場の方に、参加青年一人一人の個性が織り成して作り上げた第11回「世界青年の船」を、いかに分かり易く伝えるかを中心に話し合いが行われた。地方の参加青年からも電子メールや手紙で意見が寄せられた。



▲ ニュージーランドのマオリ族の踊り「HAKA」を披露する団員たち。
戦いの前に士気を高めるために踊られるもの



▲ 会場内には団員が持ち帰った様々な品の展示が行われた。
トンガ王国のコーナーで熱心に見る来場者の方々

船から離れて数か月経った6月27日。皆と別れた寂しさと、新しい生活での新鮮な気持ちを持った青年達が、国立オリンピック記念青少年総合センターに集合した。互いを懐かしみ、歓声があちこちで湧き上がった。それまで離れていたのがうそのように、まとまって準備にとりかかる。船での生活に逆戻りしたような雰囲気が、何とも言えない心地よさだ。

最終の打ち合わせでは、当日の参加青年全員に役割分担がされ、本番が近づくにつれ少しずつ緊張感が漂いはじめた。プログラムの内容は、ビデオ、スライド上映、パフォーマンス、パネルディスカッション、懇談会、コーラスと盛り沢山であった。中でも、ニュージーランドのマオリ族の男性の踊り「Haka」とトンガの女性の優雅な踊り「Tongan Dance」は皆の意気込みが感じられた。体を使っ

て表現している我々に、観客の方々も真剣なまなざしと拍手で応えてくれたのが印象的であった。あっという間の3時間が経過した。

この報告会を通じ、我々の団結力や表現力が増したことは言うまでもない。国内だけではなく、世界中で育まれたネットワークを大切にすることが、我々の事後活動につながると思う。

ここまで報告会がスムーズに進んだのは、我々参加青年一人一人の力と、協力して下さったIYEOの役員の方々や(財)青少年国際交流推進センター職員の皆様のおかげである。又、当日、悪天候にもかかわらず、参加して下さった70名以上のお客様、役員、管理部及びアドバイザーの皆様にも心から感謝の言葉を贈りたい。

次は、どのような Celebrating Diversity を発見できるか、楽しみである。

青少年国際交流事後活動推進大会
日本青年国際交流機構第15回全国大会
第6回青少年国際交流全国フォーラム

いまから ここから まん真ん中から

1. 主催 総務庁青少年対策本部、財青少年国際交流推進センター
日本青年国際交流機構、岐阜県青年国際交流機構
2. 主管 日本青年国際交流機構第15回全国大会岐阜大会実行委員会
3. 期日 平成11年12月4日(土)～5日(日)
4. 会場 岐阜ルネッサンスホテル
〒502-0817 岐阜市長良福光 2695-2 TEL 058-295-3100 FAX 058-295-3200
5. 参加費 宿泊 17,000円(学生14,000円、中学生以下10,000円)
非宿泊 10,000円
※オブショナルツアーは別途参加費必要
Aコース「世界文化遺産白川郷の旅」6,000円(交通費、昼食代、含む)
Bコース「岐阜城と信長めぐり」 1,000円(往復ローブウエイ代)
6. 申込方法 同封の振込用紙に必要事項を記入の上、参加費を振込んで下さい。
ハガキ又はFAXによる場合は、振込用紙通信欄と同様の内容及び参加費支払日、
支払方法を記入し下記、宿泊担当へ申込み下さい。〔申込締切日 11月2日(火)〕
〒501-1183 岐阜市則松2-197 村山 芳郎 TEL・FAX 058-239-9917
- 振込口座 郵便振替口座番号 0080-1-18331
口座名 I.Y.E.O全国大会
7. プログラム
- 12月4日(土) 13:00 受付
14:00 開会式
15:00 フォーラム 第1部「いまから」 記念講演「異文化コミュニケーション」
岐阜女子大学教授 ペマ・ギャルポ氏
第2部「ここから」 フォーラムディスカッション
第3部「まん真ん中から」 岐阜大会テーマソング合唱、他
- 18:00 懇談会
- 12月5日(日) 閉会式/オブショナルツアー

* 会員の方は、同封の振込用紙にてお申込下さい。

日本青年国際交流機構都道府県会長一覧

平成11年6月8日現在

県名	団体名称	会長氏名	〒	住 所	電話番号	
北海道 青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島	北海道青年国際交流機構	富 樫 泰 介	064-0808	札幌市中央区南8条西7丁目506	011-511-2766	
	青森県青年国際交流機構	木 村 勝 見	030-0911	青森市岡造道3-9-14	0177-42-0358	
	青年海外派遣岩手県連	小 川 太 一	020-0585	岩手郡雫石町長山6-207-2	019-693-4328	
	宮城青年国際交流機構	及 川 留 太 郎	987-1304	志田郡松山町千石松山482	0229-55-4181	
	秋田県青友会	浅 野 英 樹	010-0952	秋田市山王新町6-4	0188-64-5524	
	山形県青年国際交流機構	佐 藤 恵 一	992-0037	米沢市本町1-2-3	0238-24-6937	
	船と翼の会ふくしま	宗 像 邦 司	963-4701	田村郡都路村大字古道字後ノ前16	0247-75-2311	
茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨	茨城県青年国際交流機構	渡 辺 英 明	308-0000	下館市小林124	0296-24-4143	
	栃木県青年国際交流機構	手 塚 美 保 子	329-1300	塩谷郡氏家町大字氏家2444	0286-82-2303	
	群馬青友会	岡 村 根 代	375-0024	藤岡市藤岡380-19	0274-22-0070	
	埼玉県青年国際交流機構	岡 根 廣 次	356-0045	入間郡大井町鶴ヶ岡2-1-23-105	0492-61-7392	
	千葉県青年国際交流機構	野 村 隆 紹	277-0055	柏市光ヶ丘2-1-1	0471-73-3142	
	東京都青年国際交流機構	高 田 健 二	130-0011	墨田区石原1-30-6-802	03-3892-1847	
神奈川県青年国際交流機構	篠 崎 浩 子	221-0802	横浜市神奈川区六角橋6-25-4	045-491-6946		
山梨県青年国際交流機構	大和田 浩 二	400-0422	中巨摩郡甲西町荊沢852-4	0552-84-0921		
新潟 富山 石川 福井 長野	新潟県青年国際交流機構	長谷川 吉 仁	940-2157	長岡市大積三島谷町581	0258-47-0621	
	富山県青年国際交流機構	杉 木 芳 文	939-0561	富山市水橋石割54	0764-78-0525	
	石川県青年国際交流機構	宮 本 剛	921-8806	石川郡野々市町稲荷2-26	0762-46-6835	
	福井県青友会	斎 藤 清 一 郎	911-0832	勝山市遅羽町逢生16-5	0779-88-1228	
	長野県青年国際交流機構	樋 口 敦 子	381-2224	長野市川中島町原101	026-292-7842	
	岐阜 静岡 愛知 三重	岐阜県青年国際交流機構	堀 場 巖	501-6016	羽島郡岐南町徳田1-250	058-272-6995
静岡県青年国際交流機構		村 田 由 紀 子	421-0103	静岡市丸子4-19-28	054-259-4497	
愛知県青年国際交流機構		坂 井 香 奈 子	465-0013	名古屋市名東区社口1-202 2-308	052-771-2723	
三重県青年国際交流機構		喜 多 洋 輔	514-0102	津市栗真町屋町535-205号	059-231-2113	
滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山		滋賀県青年国際交流機構	雨 宮 美 津 子	520-0052	大津市朝日が丘1-2-41	0775-22-4343
		京都府青年国際交流機構	南 明 男	610-0313	綴喜郡田辺町三山木高飛34	0774-62-0225
	大阪府青年国際交流機構	松 本 仁 孝	540-0017	大阪市中央区松屋町住吉5番8号	06-6761-3256	
	兵庫県青年国際交流機構	高 谷 敏	675-0045	加古川市西神吉町岸467-1	0794-32-5941	
	奈良県青年国際交流機構	吉 岡 克 也	631-0845	奈良市宝来3-19-1-1	0742-45-7917	
	和歌山海友会	橋 本 雅 史	641-0013	和歌山市内原941-14-201	0734-46-5689	
鳥取 島根	とっとり青友会	河 崎 忠 義	689-0217	気高郡気高町酒津650番地	0857-82-0430	
	島根県国際交流青友会	手 銭 長 光	690-0823	松江市学園南2丁目2番1号 く に び き メ ッ セ 2 階 (岡山国際センター内(事務局))	0852-31-5056	
	岡山 広島 山口	岡山青年国際交流会	村 木 実 由 紀	700-0026	岡山市奉還町2-7-1	086-253-0110
広島県青年国際交流機構		落 田 正 弘	729-6201	三次市和知町1512	0824-66-2682	
山口県青年国際交流機構	宗 廣 宜 之	742-0031	柳井市南町1丁目7-5-303	0820-23-3090		
徳島 香川 愛媛 高知	徳島県青年国際交流機構	木 藤 一 人	770-0944	徳島市南昭和町6丁目88の3の406	088-653-9187	
	香川県青年国際交流機構	島 田 和 則	767-0021	三豊郡高瀬町佐股811-8	0875-74-6601	
	愛媛県青年国際交流機構	田 中 千 代	791-8025	松山市衣山5丁目1-50	089-923-0267	
	高知県青年国際交流機構	松 茂 晶 子	780-8085	高知市大谷公園町3-10	088-843-2946	
福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄	福岡県青年国際交流機構	藤 永 郁 智	811-1356	福岡市南区花畑3丁目40番24-205号	092-566-0670	
	佐賀県青年国際交流機構	田 島 健	843-0303	藤津郡嬉野町大字吉田丁4065	0954-43-9406	
	長崎県青年国際交流機構	末 永 透	859-2304	南高来郡北有馬町丁397	0957-84-2783	
	熊本県青年国際交流機構	武 元 典 雅	861-3906	阿蘇郡蘇陽町神ノ前242-15	0967-83-0505	
	大分県青年国際交流機構	安 東 敏 眞	870-1152	大分市大字上宗方1052-8	0975-41-0633	
	宮崎県青年国際交流機構	上 杉 聖 次	889-0505	延岡市北一ヶ岡2丁目6-6	0982-37-0690	
	鹿児島県青年国際交流機構	吉 村 聖 人	899-6201	始良郡栗野町木場89-1 丸池タウン栗棟301号	0995-74-2903	
	沖縄県青年国際交流機構	喜屋武 栄	900-0002	那覇市曙2-24-4 PMCマンション301	098-863-1600	

総務庁青年国際交流事業地方プログラム受入れのお知らせ

あなたの故郷へ世界の風を！

外国青年にとって、ホームステイや各地での交流プログラムは忘れえぬ思い出となって胸に残るものです。ご自分の地域の受入国に興味のある方、地域で国際交流をしたい方は、積極的に参加して外国青年とともに楽しい思い出を作ってください。

〔今後の地方プログラムの予定〕

○第5回「アジア太平洋青年招へい」

和歌山県、山口県、佐賀県、大阪府、北九州市（10月6日～10月11日）

招へい国〔オーストラリア、ブルネイ、カンボディア、中国、フィジー、インドネシア、キリバス、韓国、ラオス、マレーシア、マーシャル諸島、モンゴル、ミャンマー、ナウル、ニュー・ジーランド、パラオ、パプア・ニューギニア、フィリピン、シンガポール、ソロモン、タイ、ヴァヌアツ、ヴィエトナム（23か国から各5名）〕

（各縣市毎に4か国又は5か国のグループで訪問。）

○第13回「日本・韓国青年親善交流」 山形県、埼玉県、京都市（11月6日～14日）

○第21回「日本・中国青年親善交流」 千葉県、大阪府、沖縄県、神戸市（11月13日～11月25日）

（韓国青年約40人、中国青年約30人が各道府県市を順番に訪問。）

○第26回「東南アジア青年の船」の地方プログラム（12月11日～13日）

福島県、群馬県、新潟県、山梨県、愛知県、三重県、兵庫県、奈良県、香川県、大分県

（ASEAN9か国と日本青年の混成グループ約33名が各県を訪問し、ホームステイをします。）

第6回「日韓交流スタディツアー」 団員募集（12名）のお知らせ

10月31日（日）～11月6日（土）7日間（予定）

当センター及び日本青年国際交流機構と（社）韓国青少年交流振興協会との間で、民間交流を促進するために行なっているスタディツアーです。

プログラム期間中には、ホームステイや地方旅行を含め、様々なプログラムが予定されています。韓国を身近な国にしてみませんか？

詳細については当センターへお問い合わせ下さい。

SSEAYP International Photo Exhibit について

「東南アジア青年の船」参加各国の同窓会を結ぶネットワーク SSEAYP International では、“アジア子供の絵画展”、“エッセイコンテスト”等の様々な共通活動を実施しています。

今回は「Photo Exhibit」を行います。11部門のテーマに沿った写真を皆様に提供していただき、ASEAN 各国から集まった写真とともに、第26回「東南アジア青年の船」の運航期間中に掲示し、ASEAN 諸国及び日本の文化紹介に役立てたいと考えています。

〈テーマ〉

- | | |
|--------------------------|-----------|
| 1. 食べ物・ものを食べているところ | 7. お祭り |
| 2. 住 宅 | 8. 青年活動 |
| 3. 交通機関 | 9. ナイトライフ |
| 4. 伝統文化 | 10. 買 い 物 |
| 5. 服 装 (伝統的なものまたは現代的なもの) | 11. そ の 他 |
| 6. 家族での余暇活動 | |

〈写真応募の際の注意事項〉

1. 上記のテーマに合う写真を1枚から送付できます。
2. 写真のサイズはA4サイズでカラーであること
3. 写真を撮影した人の名前と写真のタイトル、そして簡単な説明を別紙に記してあること。
4. 写真の返却は致しません。

- | | |
|---------|--|
| 5. 送付先 | 日本青年国際交流機構事務局
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町
2-35-14
東京海苔会館6階
TEL 03-3249-0767
FAX 03-3639-2436 |
| 6. 応募期限 | 平成11年10月5日(火) |



「アジア青年のつどい」に参加してみませんか

「東南アジア青年の船」国内受入プログラムの中に、東京での2泊3日の交流プログラムが組まれています。これは、東南アジア諸国の青年と日本の一般青年が交流することを目的として行われているものです。また総務庁青年国際交流事業に参加していない方で参加希望の方がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介下さい。詳細については、日本青年国際交流機構事務局へ資料をご請求下さい。

1. 名 称 「アジア青年のつどい」(英文: ASIA YOUTH MEETING)
2. 期 間 1999年12月13日(月)～12月15日(水)〔2泊3日〕
3. 主 催 国立オリンピック記念青少年総合センター
財団法人青少年育成国民会議
日本青年国際交流機構
4. 募集人員 ローカルユース(一般募集) 約60名
5. 参加費 無料(会場までの交通費は自己負担)

編集後記

受入スケジュールがびっしりの秋です。でも、秋は、日本らしさを感じさせてくれる季節でもあります。外国青年との出会いの機会を、より楽し

く実りある場にするために、忙しさで毎年同じように流してしまわないように気をつけたいですネ。どんな工夫ができるでしょうか。

*本誌の年間講読をご希望の方は、財団法人青少年国際交流推進センターまで葉書又はFAXにてお申込み下さい。年間講読料は1,500円です。

MACROCOSM(マクロコズム) 9月号 Vol.30 1999年9月1日発行(隔月発行)

編 集: マクロコズム編集委員会

発 行: 財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14

TEL 03-3249-0767

FAX 03-3639-2436

e-mail LDP04056@nifty.ne.jp

URL <http://www.iic.or.jp/iyee>

編集協力: 総務庁青少年対策本部
日本青年国際交流機構

定 価: 198円(本体189円)

印 刷 所: 株式会社 絢 文 社

TEL 03-3959-3960

課題別視察



▲ 裏千家東京道場



▲ 世田谷区立砧工房



◀ 新宿区立四谷第一小学校

▼ 日産自動車株式会社村山工場



国際協力事業団 ▼



各府県での受入より



◀ 岩手県
200年前にタイムスリップ



▲ 滋賀県
琵琶湖の洋上研修船での実験体験



▲ 栃木県
初めてのうどん作りに楽しそう



◀ 京都府
慣れない正座を良くがんばりました

▶ 島根県
私たちの国の歌を覚えてね

